



紙面のガーデニング  
ラクのハナミズキ

URAWAGAKUIN HIGH SCHOOL

# 浦学だより

Vol. 91

2014.6.2

☎ 336-0975

埼玉県さいたま市緑区代山172

TEL 048-878-2101 FAX 048-878-3335

<http://www.uragaku.ac.jp/>

発行者 浦和学院高等学校広報部

編集者 浦和学院高等学校企画部

## 部活動大会報告

### テニス部男子

#### 全国選抜大会

3年E組 福井 裕貴  
(さいたま市立西原中学校出身)

全国選抜大会では、男子1回戦敗退、女子ベスト8という結果になった。

男子1回戦甲南高校との試合は2対3で接戦になつたが負けてしまった。女子もベスト4を決める試合で2対3と接戦になったが、負けという結果になってしまった。このような結果になってしまったが、この大会を通してチームの絆がより深まった。男子は2年ぶりの全国選抜大会に出て、全国という舞台の雰囲気を感じたり、選手としてチームのために戦い抜いたり、チームの仲間を応援し、全力で最後まで戦い抜き、また新たに私たち自身が成長したと思う。

男子だけでなく、女子も勝てば優勝、男子ならベスト8に行けたという悔しい気持ちはあるが、新たな全国への道がすでに始まっている。私たちは今回の経験をバネにその道を突き進む。

#### 全国選抜大会ベスト8

### テニス部女子



3年K組 廣川 真由  
(越谷市立富士中学校出身)

私達テニス部女子は、昨年ベスト16で終わってしまった悔しさや、先輩達の思いも含めて毎日練習してきました。

まず1回戦で浜松市立と大苦戦しながらも勝利し、勢いに乗って第1シードの京都外大西も倒してベスト8に入りました。ベスト4決めも大接戦しながらも惜敗し、

優勝という目標には届きませんでした。今回の目標は、「優勝して笑顔で帰る」と掲げていたので達成できなくてとても悔しいです。

しかし、このベスト8という結果は自分たちだけでなく、先生や家族、メンバー以外のみんなの支えがあるからだと思います。次のインターハイでは、今回の経験を生かし優勝できるように頑張ります。

今後とも応援よろしくお願いします。

#### 全国選抜大会

### パワーリフティング部

3年X組 植木 信芳  
(草加市立新栄中学校出身)



私達パワーリフティング部は、3月23日の全国大会に出場しました。昨年の夏の全国大会では男子が団体優勝し、団体では良い結果を残すことができましたが、私個人の結果が良くなく団体にも貢献できず、悔しい思いが残りました。その為、まず自分で目標と期限を決めて取り組むようにしました。ゴールに向かい、時間を区切って力を尽くせば達成できてもできなくても、何が良くて何が足りなかつたか、次はどうすべきか、目に見える結果を得ることができると思ったのです。その結果、今大会の個人では優勝、入賞する部員も多く良い結果を残せました。この結果をとれたのは先生方、先輩方のサポートがあり、普段の練習でも自分たちの練習を指導して下さったおかげだと感じました。夏の全国大会では団体優勝2連覇を目指して頑張っていきます。

## 26年度の本校の指針

学校法人明星学園理事長 小沢 友紀雄  
浦和学院高等学校校長

浦和学院高校の校風と伝統を「品格のある文武両道の浦学」を感じるものにしたいと考えている。「品格のあるもの」を作るのはそう容易ではない。年月をかけてコツコツと築き上げ、磨き上げて自然に備わってくるものであり、短期で完成するものではないのだ。

26年度の本校の目標として、「国際教養の浦学」そして「ライフスキル教育の浦学」の完成に全教職員がベクトルを合わせ、生徒の一人ひとりの個性に合わせた教育を行い、想像以上のレベルの大学進学を成功させることができる。

国際教養の浦学の推進のために、当校は意識的に国際的多様性に触れる機会を増やしていくつもりでいる。そして、教職員・生徒・保護者を含む浦学ふみり～全体が、「国際的多様性に触れる機会を増やす努力」を怠らず、それをライフスキル教育に利用する意識を持つことが大切である。

社会生活の中に生じる問題や要求に対して、建設的かつ効果的に対処出来る能力をライフスキルといい、それを育てる教育がライフスキル教育であるが、当校はそれを重視している。WHOが示すライフスキルの10項目には「意志決定・問題解決・創造的思考・批判的思考・効果的コミュニケーション・対人関係スキル・自己意識・共感性・情動への対処・ストレスへの対処」などがあるが、これらの教育の場は社会生活、学校生活の中に多種存在する。国際的多様性に触れて、「何を感じ・考え・行動するか」に利用出来れば、国際教養とライフスキルの両者の教育に大きな影響をもたらすに違いない。

国際教養とライフスキル教育は浦学の品格を向上させる大きなベクトルの一つになるものと思っている。

### NDA National Championship 2014 (全米大会3位)

### ソングリーダー部

3年N組 成塚 南美  
(鴻巣市立鴻巣西中学校出身)

私達ソングリーダー部は、3月上旬、フロリダで開催された「NDA National Championship 2014 (全米大会)」に2年連続出場しました。昨年は、出場できた喜びでいっぱいでしたが、今回は順位をあげることが目標でした。昨年の6位から3位に順位を上げられたのは、学校の応援や保護者の応援、そして卒業した上級生の方々の応援があったからだと思います。この大会では、チーム同士が健闘を称え合い、演技中も会場全体で応援してくれるので気持ち良く演技ができました。そして、各々のチームが心から他のチームを応援するというスピリットを学べました。3月下旬の「USA School & College Nationals 2014」では、全米大会で学んだことを活かせるように臨み、全国2位に入賞しました。私達の持てる力を出し切れたので納得をしています。さらに大きな目標を掲げ、個人でもチームとしても成長できるように練習を重ねていきたいと思います。



## 平成25年度受験結果について

昨年度の大学入試を振り返ったときまず頭に浮かぶのは、旧課程最後の入試であったということだ。旧課程で勉強していた生徒が、新課程での試験を受けることは明らかに不利になる。そこで浪人することを避けるために、1人あたりの出願数が増えた。その結果、受験人口は減少しても実質倍率は昨年度に比べると高くなり、生徒たちにとっては厳しい受験となつた。実際、センター利用試験では、昨年度であれば合格している点数でも不合格になるケースが多々あった。

また、昨年度はインターネット出願元年の年でもあった。全国に先駆け、3つの大学が全ての出願をインターネットで行うことを決めた。その中の1つである近畿大学は、それまで出願者数1位を争っていた早稲田大学と明治大学を抜いて日本一の志願者を集めた。おそらく、今後インターネット出願は急速に普及することになるだろう。急きょ受験校を追加するとき、願書を取り寄せなくても出願できるこのシステムはかなり便利であり、本校でも利用する生徒が多かった。また、インターネットで出願すると、受験料を割引する学校などもあり、各大学が受験生を確保するために様々な取り組みを実施している。今後、受験生たちはそういったところにも着眼しながら、慎重に大学選びを行う必要がある。

このような状況の中で本校は、6年連続で大学進学率80%を超える実績を出すことができた。国公立大学においても昨年度より11名増加し、27名が合格した。年々実績が上がる本校に対して、指定校推薦を依頼する大学が増えている。昨年度、立教大学や國學院大學からは新規で依頼があったほか、法政大学は人数枠を増やした。

3年生諸君には、さらなる飛躍を期待する。

進路指導部長 高橋 広和

# 大学・短大 現役進学率 86.4%

区分	進学数	現役合格率
国公立大学	27名	81.3%
私立大学	609名	
短期大学	40名	5.1%
<b>大学・短大 計</b>	<b>676名</b>	<b>86.4%</b>
専門学校	85名	10.9%
<b>総計</b>	<b>761名</b>	<b>97.3%</b>

## 平成25年度

## 現役生受験結果

(合格者延べ数)

国公立大学	
東京農工大学	1
横浜市立大学	1
宇都宮大学	1
弘前大学	1
信州大学	2
会津大学	1
滋賀大学	1
新潟大学	1
琉球大学	3
都留文科大学	1
北見工業大学	2
室蘭工業大学	2
新潟県立大学	1
熊本県立大学	1
富山県立大学	2
釧路公立大学	3
青森公立大学	1
防衛大学校	1
職業能力開発大学校	1
<b>国公立大学 小計</b>	<b>27</b>

私立大学	
淑徳大	10
女子栄養大	2
女子美術大	7
尚美学園大	18
昭和音楽大	1
昭和女子大	4
上武大	2
上智大	2
城西大	25
城西国際大	16
駿河台大	3
成蹊大	5
成城大	1
清泉女子大	1
聖学院大	10
聖徳大	4
西武文理大	6
聖心女子大	1
専修大	10
大正大	5
大東文化大	20
拓殖大	5
宝塚大	6
高崎商科大	1
高千穂大	2
玉川大	2
多摩美術大	2
千葉科学大	1
千葉工業大	14
中央大	4
中央学院大	4
帝京大	52
帝京科学大	12
帝京平成大	8
デジタルハリウッド大	3
桐蔭横浜大	2
東海大	6
東京医療保健大	2
東京家政大	5
東京家政学院大	2
東京経済大	3
東京工科大	17
東京工芸大	3
東京国際大	22
東京女子体育大	3
東京情報大	1
東京成徳大	2
東京造形大	1
<b>私立大 小計</b>	<b>715</b>

私立大学	
東京電機大	10
東京都市大	3
東京農業大	1
東京富士大	2
東京福祉大	5
東京未来大	6
東京理科大	2
東都医療大	2
東邦大	1
東北芸術工大	1
東洋英和女学院大	1
東洋学園大	10
東洋大	29
獨協大	9
二松学舎大	1
日本医療科学大	10
日本体育大	2
日本女子体育大	3
日本工業大	10
日本大	19
日本保健医療大	6
日本文化大	1
日本薬科大	6
人間総合科学大	4
白鷗大	2
阪南大	1
文化学園大	4
文京学院大	8
文教大	12
平成国際大	6
法政大	7
武藏大	4
武藏野大	3
武藏野美術大	3
明海大	2
明治大	4
明星大	6
目白大	11
ものづくり大	4
山梨学院大	1
立教大	6
立正大	16
流通経済大	4
了徳寺大	2
麗澤大	2
和光大	1
和洋女子大	1
<b>私立大 小計</b>	<b>715</b>

短期大学	
青山学院女子短大	3
垂細亞大短大	2
大妻女子大短大部	3
川口短大	2
国際学院埼玉短大	2
埼玉女子短大	3
実践女子短大	1
淑徳短大	4
女子美大短大部	2
星美学園短大	2
聖徳大短大	3
戸板女子短大	3
東京成徳短大	3
東京農大短大	1
東京福祉大短大	1
新渡戸文化短大	2
日本大短大部	2
日本歯科大東京短大	1
武蔵丘短大	1
<b>短期大学 小計</b>	<b>41</b>

看護・医療系専門学校	
上尾中央医療専門	1
アポロ歯科衛生専門	1
大宮歯科衛生士専門	2
川口市立看護専門	2
北里看護専門	2
埼玉県立高等看護学院	1
慈恵看護専門	1
慈恵柏看護専門	1
太陽歯科衛生士専門	1
中央医療技術専門	1
帝京高等看護学院	3
東武医学技術専門	2
戸田中央看護専門	2
西埼玉中央病院看護	1
日本健康医療専門	1
新渡戸文化専門	2
日本リハビリテーション専門	1
東都リハビリテーション学院	1
<b>医療系専門学校 小計</b>	<b>24</b>

専門学校	
B L E A 学園	1
H A L 東京	2
エコール辻	1
ハリウッドピューティー	2
ヒコ・みづのジュエリー	1
国際こども福祉カレッジ	1
国際文化理容美容専門	1
埼玉県立理容美容専門	4
埼玉県立中央高等技術専門	1
埼玉自動車大学校	1
埼玉福祉専門	1
山野美容専門	1
資生堂美容技術専門	1
尚美ミュージックカレッジ	2
織田栄養専門	1
新宿調理師専門	1
神田外語学院	1
代官山音楽院	1
大宮こども専門	1
大宮国際動物専門	1
大原医療秘書福祉保育専門	1
大原法律公務員専門	2
東京アニメーション	1
東京コミュニケーションアート	1
東京スポーツレクリエーション	1
東京デザイナー学院	2
東京ビューティーアート	1
東京フィルムセンター	2
東京ヘアビューティー	2
東京ヘアメイク	1
東京観光専門	2
東京声優アカデミー	1
東京総合美容専門	3
東京法律専門	1
東放学園	1
東洋美術学校	3
読売自動車大学校	2
日本ウェルネススポーツ	1
日本ホテルスクール	1
日本外国语専門	2
日本工学院	3
日本美容専門	2
武藏野調理専門	1
服部栄養専門	1
<b>専門学校 小計</b>	<b>64</b>

第34期卒業生  
在籍 782名



# 大学合格者体験記

## 上智大学外国語学部

グローバル 高澤 結女  
(草加市立花栗中学校出身)

私は、1年間のカナダ留学経験を活かすために推薦入試で大学を受験しました。留学中から自分の進路を明確にし、志望校を決め、入試に必要な準備をしてきました。そして、帰国後には自分の強みを形にするために英検やTOEICの資格取得に励みました。入試では、英語の筆記試験や英語面接が課せられていました。その為、3年生の2学期から大学の推薦と一般入試の過去問題を計画的に解き、毎日、グローバルコースを担当する先生方に面接練習をしていただきました。受験を乗り切る為には、日々の体調管理が重要です。どんなに忙しい時期でも食事と睡眠を十分とることが大切です。また、書類や面接試験対策の1つとしてインターネットや新聞での日々のニュースをチェックすることも有効です。そして、推薦入試合格者は一般入試合格者との学力差がつかないよう入学まで学習を継続しましょう。

## 防衛大学校理工学専攻 公募推薦

文理選抜 小山 健士  
(北区立十条富士見中学校出身)

私は、大学受験を通じ「自分自身に負けないこと」を一番学びました。防衛大学校は将来の幹部自衛官を育成する学校です。そのため、受験者は高校3年生だけでなく、社会人の方まで幅広い人が受験するので、求められるレベルは他の一般大学とは比べられないほど高いのでとても大変でした。防衛大学校を受験することを決めてからは毎日夜遅くまで勉強し、勉強と平行して、現役の自衛官の方との個人面接の練習もたくさんしました。その中で、幾度も挫折をしそうになりました。しかし、自分で自衛官になることを決めて防衛大学校を選んだので、「自分自身」には負けませんでした。受験当日も、他の人は気にせず「自分自身」に勝つ氣で望みました。どんなときでも「自分自身に負けないこと」これがとても大事だと分かりました。

## 芝浦工業大学工学部

文理進学 伊藤 匠  
(川口市立安行中学校出身)

受験には多くの方法があります。私は1年次から指定校推薦で大学を受験しようと思っていた。3年間多くの努力をし続け、高い成績を維持していくれば、きっと3年次に希望する大学に入学できると考えていたからです。東日本大震災をきっかけに、橋や高速道路などの耐震、免震に興味をもち、芝浦工業大学の土木工学科で研究したいと思うようになり指定校にエントリーしました。そして受験資格と推薦をいただくことができました。このような結果を残せたのも、支えてくれ応援してくれた友人の存在や指導をしていただいた先生方のお陰だと思います。最後にこれから受験される後輩の皆さん、妥協せずに多くの事に全力を尽くしてください。その中から自分のやりたいことが見つかることと思います。先生方もサポートしてください。思い切り全力でがんばってみて下さい。

## 中央大学理工学部 一般入試

サイエンス 横山 光  
(さいたま市立植竹中学校出身)

浦和学院入学時より、将来は情報系へ進学しようと決心していました。授業や講座を休まずに聞きのがさないようにしてきた結果、数学がどんどん伸びました。また、1年次の東京大学訪問や法政大学でのグループワーク、2年次のオーストラリアでのプレゼンテーションは一見受験とは無関係に思われがちですが、事前に行った調べ学習は、今でも受験勉強の根底をなしていると考えます。模擬試験の結果が出るたびに行われる担任との面談で、自分が今やるべきことを認識することができ、最終到達点までのプロセスを自分だけでなく、先生の客観的視点から指導していただけたことも合格を勝ち得た要因であることは間違ありません。「入試は分析と戦略」という担任の言葉が今では身に染みて理解できます。合格のためには自分の考えに固執することなく、いかに客観的な意見を取り入れて、効率よく学習するかにかかっています。

## 國學院大学文学部

指定校推薦

文理選抜 佐伯 駿  
(稻城市立稻城第三中学校出身)

私は3年間陸上部に所属し、文武両道を目標に生活をしてきました。そのような私は、推薦入試での受験を考えていましたが、進路について考えていく中で、自分が志望する大学や学部には指定校推薦枠がないことを知り、一般入試も視野に入れて勉強するようになりました。授業以外でも、わからない問題は先生に質問に行き、勉強方法などについても相談に乗っていただきました。そして3年生になって、この大学から新たしく推薦枠をいただいたことを知りました。試験内容は学科試験と面接でしたが、今まで一般入試も考えて勉強をしてきたので、戸惑うことなく受験に臨むことができたと思います。私は、受験校を決めるのは遅い方だったと思いますが、それまでたくさん悩み、様々な可能性を考え行動に移してきたことが、良い結果につながったのではないかと思います。皆さんも後悔のない進路活動を行えるよう頑張ってください。

## 法政大学人間環境学部

文理選抜 今井 七海  
(さいたま市立大宮八幡中学校出身)

私が最終的に志望大学を決めたのは、3年生の夏休みの終わりでした。それまでは特別なことはしていませんでしたが、国際関係や、環境問題など、自分で興味を持ったことは積極的に調べ、知識を蓄えておくことに努めました。特に、新聞ノートはなるべく継続して行うようにしていました。それが志望理由書や面接の材料として役立ちました。また、苦手だった面接の練習を行う際には、担任の先生だけでなく、進路の先生方がとても親身になって指導して下さり、最後には自信を持って行えるようになりました。

受験は自分との戦いだと思います。しかし、サポートして下さった先生方、支えてくれた家族や、応援してくれた友達のおかげで受験を乗り越えることができました。決して、一人では成し得なかったと思います。本当に感謝しています。ありがとうございました。

## 立教大学コミュニティ福祉学部 A.O入試

文理進学 高田 涼太  
(朝霞市立第三中学校出身)

私は3年間野球部に所属し、「Never give up」という言葉を胸に野球と勉強を文武両道の精神で取り組みました。野球づけの日々で朝早くから夜遅くまでの厳しい生活でしたが、決して妥協することなく目標に向けて精いっぱい取り組み、日本一につかむことが出来たと思います。また、勉強の面では先生方にアドバイスを頂き、苦手な勉強も全力で取り組みました。入試準備では、志望理由書、面接練習など一人では難しいことばかりでした。しかし、担任の安保先生や進路指導の先生方が協力して下さり、多くの力を頂きました。本当に今まで支えてくださった方には心から感謝しています。進学するにはたくさんの方々が支えてくれます。決して、苦しいことでも逃げず、諦めることなく全力を尽くせば、必ず結果はついてきます。目標に向けて、できることを全力で取り組み頑張ってください。

## 亜細亜大学経営学部 A.O入試

文理進学 北村 夏海  
(蓮田市立黒浜中学校出身)

私は、亜細亜大学のホスピタリティマネジメント学科をAO入試とホスピタリティ推薦の2つの入試方法での受験を決めました。どちらも倍率が高く受験内容も新聞読解、集団討論、集団面接と決して簡単ではありませんでした。

部活動をやっていた私は、部活が終わった後やお休みの日に積極的にホスピタリティに携わる現場に行き勉強しました。夏休みには進路指導の先生方に協力してもらい、オリエンタルランドの広報部の方にディズニーランドでのホスピタリティなどお話を聞きに行ったり、日本経済新聞を毎日読むなどして過去問題を繰り返しました。

入試準備では部活顧問の先生、進路指導の先生方、ソングリーダー部、家族などたくさんの方々が協力して下さいました。本当に感謝の気持ちで一杯です。諦めず、今自分にできることを深く実践し、常日頃周りの方々に感謝していくことが大切だと思います。

## 東京工科大学医療保健学部 A.O入試

保健医療 岩田 茉奈美  
(さいたま市立柏陽中学校出身)

私がこの大学を受験しようと決めたのは3年生の5月頃でした。そこからは、受験モードに入りました。今年度から指定校推薦がなくなってしまったので、AO入試と公募推薦入試に向か早めの対策をしなければいけませんでした。勉強の意識も高まりニュースや新聞もこまめにチェックするようになりました。7月には、10月のAO入試の内容が発表され、夏休み中には課題文と面接練習をやりはじめました。

課題文は児玉先生に何度も見直してもらい、直接練習は森先生、児玉先生、奥脇先生など多くの先生に指導していただきました。また、直接練習はクラスの友人にも手伝ってもらいました。その結果、10月のAO入試で合格することができました。私が合格できたのも先生のご指導や友人の支えがあったからだと思い、とても感謝しています。みなさんも自分が行きたい学校を見つけ最後まで諦めず頑張って下さい。

## 武蔵野美術大学造形学部

アート 中原 純  
(幸手市立東中学校出身)

私は、高校入学時には、すでに美術大学進学を希望していました。そこで、2年生から各美術大学のオープンキャンパスに積極的に参加し、自分の作品を大学の先生方に見ていただきました。また、展示してあった合格作品に刺激を受け、自分の作品をレベルアップさせるために、毎日遅くまで美術部で活動しました。

武蔵野美術大学を第1志望校に決めてからは、公募推薦と一般入試の両方を見据えて、本格的に作品制作と勉強に取り組みました。

しかし、私ひとりの努力だけでは合格は難しかったと思います。先生方が熱心に公募推薦に必要なポートフォリオや自己推薦調査の作成を指導してくださったり、作品を制作する際にアドバイスをしてくださったおかげだと、感謝の気持ちでいっぱいです。

みなさんも、志望校が決まったら、合格という目標に向かって、悔いのないように努力してください。

## 東京農工大学工学部

一般入試

プログレス 阪井 晴一郎  
(さいたま市立土合中学校出身)

私は、当初一般入試で東京農工大学に出願する予定でした。しかし、農工大の入試制度では公募推薦において直接試験がないことと、センター試験と書類調査のみで合否が決まる事を担任の先生から伺い、出願することを決めました。また、公募推薦と一般入試を併願できることを知り、いいチャンスだなと思いました。その後、センター試験を重視した勉強を日夜行い、農工大に合格したのですが、英語を得点できるようにしておいたことがとても大きかったです。数学や物理は、一次試験と二次試験でガラリと問題形式が変わるので、一次ができても二次ができるとは限りませんが、基礎がしっかりとしていれば英語はどちらにも対応できるので、日々の授業や講座などで先生の言う事を聞いて基礎を固めることが大事です。

## 明治大学文学部

一般入試

リーダーズ 高井 映  
(さいたま市立三室中学校出身)

私は得意な学科が多いわけではなく、不得意な科目も克服できないまま、センター試験を迎めました。

受験した私立大学の半分に落ち、すべり止めの私立でいいかなあと思いつかっていた時、センター利用の後期があることを知り、ダメ元で出してみたところ合格しました。

私は、今回の受験を通して、受験する大学の試験形態をきちんと調べておくこと、センター試験の自己採点を正確にすることの2つが大事だと思いました。「ひょうたんから駒」という言葉があるように、とりあえず出来ることは全部やってみてください。思いがけない結果が待っているかもしれません。目標とする大学を最後まで変えることなく、諦めなかつたことが今回の合格につながったと考えます。本当に行きたいならば、手を尽くして調べつくすべきだと思います。



**進学類型**  
3年V組 森 ゆきな  
(越谷市立中央中学校出身)

## 修 学 旅 行



**特進類型**

3年B組 鈴木 沙月  
(川口市立八幡木中学校出身)

私は、オーストラリアへの5泊7日の修学旅行を終えて、学んだことや感じたことが2つある。

1つ目は、言葉が伝わらないということである。このことをともに感じたのはファームステイをしたときであった。普段伝えているような簡単なことでも、英語になると難しくなって上手に相手に伝えられない。単語はあっても発音が違っていて伝わらないという場面もいくつかあった。そういうとき、ジェスチャーなどを使って、気持ちを伝えてみると意外にも相手の方は分かってくれた。言葉のみでなく、体を使ったり、気持ちを必死に伝えようとすることが大事だということを身を持って学ぶことができた。そして、コミュニケーションをとるということは本当に簡単なことではないということを同時に学ぶことができたと思う。また、難しいながらも、やはり相手に伝えようとする気持ちも大事だということを感じた。

2つ目は、集団で行動をするということについてだ。集団での行動は今回が初めてというわけではない。今までたくさんあったことだ。しかし、海外を1日中友達数人と歩くということは今までない経験だった。言葉も読めない、初めて歩く道、分からぬことだらけの中での班別行動は、誰かが勝手なことをしたらすぐれてしまうものもあり、大変な部分が沢山あった。団長の先生からもあったように、「思ったことはきちんと言う」ということはとても大事なことだと思う。しかし、我慢すべきところは我慢し、みんなの意見を一致させることも本当に重要だと感じた。しっかりと意見を言った上でみんなで意見を一致させる。気持ちを合わせることが集団としての行動にはかかせないことだということである。

海外での修学旅行は、コミュニケーションのとりかたや集団行動の大変さ、大きさをとても学ぶことができた。



修学旅行に行くまで、自分の住んでいる国、日本について一般的に言われているイメージでしか理解していませんでした。しかし、オーストラリアに行き、日本との違いをみて“日本はどういう国か”なんとなくわかったような気がします。

まず、一番最初のオーストラリアの印象は、時間とは切り離されている場所だと思いました。日本は時間に正確に動きます。そこは良い事なのですが、人々が忙しく動いて余裕がないように見えます。オーストラリアの人々が時間にルーズであるという話ではありません。学校や仕事の終わりが早く、時間がたっぷりあり余裕があるのです。時間がゆっくり動いていくのです。

次に、日本は水がたくさんある国なのだと実感しました。ホストファミリーには、シャワーの時間は5分と言われました。水はとても貴重だからと。それで実感したのもありますが、車で道を走っていても川がなかなかみあたらないのです。見つけても水深が浅いのです。

さらに、オーストラリアに行って得たことは、言葉についての関心です。私は、英会話は得意ではないし知識もありません。しかし、知っているかぎりの言葉で伝えなくてはならないのです。伝わった時はとても達成感があり良いのですが、伝わらないと、とても悲しい気持ちになります。この人と話したいことがあるのに、話したいのに話せないので。知識がないだけです。これはとても悲しい事だと思います。だから私はもっと英語を学ぼうと思いました。



## 語学研修

2年E組 折田 奏 (草加市立草加中学校出身)

私は、語学研修でとてもたくさんのことを学びました。その中で、特に目を見て話すことを学びました。私は語学研修に行く前、学級委員でありながら全然人の目を見て何かを話すことができませんでした。人見知りをなおしたいと思い、学級委員に立候補したにも関わらず、克服できませんでした。

英語はあまり好きではない科目であり、語学研修をやっていく上で、大丈夫か最初は不安でいっぱいでした。ネイティブの先生と私たちだけの3日間の授業が始まり、最初は何を話しているのか、どんなことを言つていけばいいのかが分かりませんでした。でも、徐々に聞いていくうちに文法が分からなくても単語が聞き取れるようになり、なんとかですが言っている言葉の意味が分かるようになってきました。最初は不安でいっぱい、笑顔なんてつくっていられない感じでしたが、徐々に分かっていき私でさえ少しゆとりを持てるようになりました。

最後の日の授業が始まりました。最後の授業は私が一番苦手な英語でのスピーチでした。前日にネイティブの先生からスピーチをやるとと言われていて、どうしようかと不安になっていた所、「Do your best!!」と声をかけてくれました。私は初めてこんな事を思いました。完璧じゃなくてもイイ、自分なりのベストをつくせばいいということを知りました。その事を思いかえし、最後のスピーチは自分の目標にしていた前に向くことを意識してベストをつくしてがんばりました。

あの時、先生が言ってくれなかったら私は緊張して思うように上手くスピーチができなかっただことでしょう。人というものは、会話をしていくことで言葉も変わり、心も変わります。そんな事を改めて感じたこの語学研修はとても思い出に残りました。

来年のオーストラリア修学旅行は英語をもっと今まで以上に勉強をして、ファームステイなど充実した7日間を過ごしていきたいです。



## 卒業記念 講演会

25年度の卒業記念講演会には、古賀稔彦氏が来校されました。古賀氏は、1992年バルセロナオリンピック柔道金メダリストで、現在は環太平洋大学教授や古賀塾で次世代の子供たちの育成をされるなど、多方面において活躍をされています。

(2014年3月現在)

講演会では、「夢の実現～挑戦することの大切さ～」をテーマに、ご自身の柔道体験や柔道の精神性を踏まえながら、自分の夢を実現するために必要な素養と考え方について分かりやすくお話し頂きました。途中、本校柔道部員らも壇上に上がり、「誰かの為に、と思う挑戦が自分の持っている以上の力を引き出す」という古賀氏の言葉の内容を実践するなど、会場はパワーと熱気に包まれていました。卒業生のみなさん、常に挑戦する心を忘れずに大きな夢をつかんで下さい！



3年A組 小林 幹也 (朝霞市立朝霞第一中学校出身)



僕が石巻ボランティアに参加しようと思ったきっかけは一年間のカナダへの留学でした。僕は、ボランティアに行く前の2月1日に日本に帰つてきました。カナダで英語を学び、英語をみにつけるだけが留学だと思つていませんでした。しかし実際はそれだけではありませんでした。現地の学校に通つて世界地理を勉強した時に現地の先生から「日本の地震と津波はどうだったの？」と聞かれました。自分がどの場所は海がない場所だということ、地震はあったが津波の影響はなかったといったこと、岸沿いの東北などの影響は深刻な問題だったことなどをしつかりと伝えました。しかし、自分が何をいつていたのかは、震災地域に実際に歩いて「まだなにも終わっていない」ということを強く感じました。震災直後は各地からボランティアが来て、瓦礫の撤去、支援物資の配布など色々な支援がありました。3年過ぎるとほぼボランティアがいないことになりました。少しどうでした。

「今はどうなつているの?」といふ問題に的確な回答をすることできませんでした。この問題を曖昧にしておくわけにはいかない」と思い、ボランティア活動があることのないように感じて、実際に歩いて「まだなにも終わっていない」ということを強く感じました。震災後は各地からボランティアが来て、瓦礫の撤去、支援物資の配布など色々な支援がありました。また、参加できたらと思います。

浦学独自の交流活動33回目となる、初の「一般ボランティアツアー」は、参加者を特定の部活動や類型コースに限定せず、全額自己負担の公募方式で行い、大型バス定員を満たす39名の参加で行われました。生徒22名を含む保護者・後援会・同窓会・教職員で構成される一行は「浦学ふあみり～ 石巻応援隊」と称し編成されました。

「被災地を自分の眼で見る」と同時に、「心の瓦礫を取り除き、心に栄養を与える」という目的を掲げ、1日目を視察に当て、2日目をボランティア活動に費やすこととなり、石巻交流センター(震災対策本部)が用意したプログラムに、参加者全員が団体行動を遵守し、意識高く協力してくれたことから、何事もスムーズに、一人の病人・怪我もなく安全にツアーを終えることができました。

ボランティアに参加してくれた、2年生(現3年)小林幹也君の感想文を紹介します。石巻交流センターでは、継続して「一般ボランティアツアー」を行います。是非、石巻応援隊にご参加下さい。

## 一般ボランティア ツアーア

浦和学院高等学校 石巻交流プロジェクト

## 「笑顔・希望」—明日へ共に歩む

頑張る仲間をみんなで応援 !!